

—— 特集 2 ——

女性犯罪者の実態と処遇——令和6年版犯罪白書を読む

令和6年版犯罪白書を読んで

——特集「女性犯罪者の実態と処遇」に関して

東洋学園大学特任教授
宮園久栄 Hisae Miyazono

I はじめに

犯罪白書では、これまで2度にわたり女性犯罪について特集が組まれている。1992年版犯罪白書特集「女子と犯罪」では、はじめて、我が国の女性による犯罪の動向及び女性犯罪者に対する処遇の実態について、公式統計を用いて詳細な男女比較が行われるとともに、女性の社会進出と女性犯罪の増加についての分析を行っている。2013年版犯罪白書特集「女子の犯罪・非行」では、女性の入所受刑者、再入者、再入率が増加傾向にあること、さらに「再犯防止に向けた総合対策」（2012年7月犯罪対策閣僚会議決定）の中で重点施策の一つとして「女性特有の問題に着目した指導及び支援」が取り上げられたことを受け、再犯防止並びに女性特有の問題に着目した指導・支援の充実に向けた基礎資料の提供とともに、それらを踏まえた提言が行われている。

そして今回の特集「女性犯罪者の実態と処遇」（以下「本特集」という。）では、これまで同様各種統計に基づく女性犯罪による犯罪の動向や、女性犯罪者に対する処遇・支援の現状について紹介するとともに、これら統計資料の分析結果を通して、女性犯罪者に対する効果的なアセスメントや処遇・支援の在り方を検討する上での参考となることを目指している点で、これ

までの特集とは視点の異なるものとなっている。すなわち、これまでの特集が、公式統計等を用いて女性犯罪の動向や刑事司法制度での取扱、女性犯罪者に対する処遇の実態を明らかにすることを通して、（男性と比べての）女性犯罪の傾向や特徴、それに基づいた対策等について提示することに重きがあったのに対し、本特集は、そのタイトルも示しているように、「女性犯罪」ではなく「女性犯罪者」に焦点を当て、女性犯罪者が抱える女性特有の問題に配慮した処遇・支援が必要であることを提言している。

そこで、まずは、本特集を読み解きながら検討を加えていきたい。ぜひ、計算機を片手にいっしょに読み進めて欲しい。

II 本特集の構成

本特集は6つの章から成る。第1章は、この特集の目的が書かれており、第2章では、女性犯罪者に対する刑事政策的対応の動きについて記載されている。女性犯罪の動向、これまでの女性犯罪をめぐる刑事政策的動き、さらには女性を取り巻く社会状況の変化等がまとめられており、第3、4章で取り上げられている公式統計、さらに第5章の特別調査を読み解く上で重要な意味をもつ。第3章では、女性犯罪の実態を明らかにすべく、各種公式統計を用いて、警察、検察、矯正、保護の各段階における女性犯罪者